

媒体名:教育家庭新聞
 掲載日:2007年3月10日
 出版社名:教育家庭新聞社

肯定的に向き合って

軽度発達障害児に「環境対話キャンプ」

環境対話研究会は、軽三浦市で開催した。

度発達障害児の症状改善 同研究会を主宰するの

に効果的なプログラムとは、倉敷市立短期大学の

して「環境対話キャンプ」 平山諭教授。平山教授は、

を開催しており、2月16 扁桃体機能を高める5つ

日から3日間、関東圏で のスキル（みつめる・ほ

初のキャンプを神奈川県 ほえむ・話しかける・さ

わる・ほめる」と、

前頭葉を高める16の

スキル（変化・緊張

・作業など）を行う

ことで、ドーパミン

など脳の神経伝達物

質を調整し、症状を

改善していくという

コミュニケーション

方法をキャンプで実

保護者に講義する平山教授



1日目、受付に来

た子どもたちはいたると

ころを走り回っていた

が、1日目の後半「サイ

モーター」(音楽に乗っ

て体を動かす・歌う)の

時間になると、はじめは

落ちつかなかった子ども

たちも次第に変化し集

中する姿が見られた。そ

の様子を笑顔で見守る平山教授は「このようにち

よつとしたことで、子ど

もたちは変化します。家

庭や学校の気遣いで変わ

つてくるんですよ」と

プログラムの効果を確認

このキャンプには、ス

タッフ(研修を受けた学

生ボランティアやスパー

ーバイザー)の他にも全

国から研修として参加す

る教育関係者も多い。

その一人、大阪府豊能

町教育委員会指導課の喜

めて感じました」

多田美保子さんは、「ス

とキャンプの感想を語

った。

理解し、笑顔と肯

定的な言葉で活動

に参加できるよう

に常に寄り添って

いたことに感心し

ました。その子ど

もに関わった指導

者がいかに肯定的

な態度や言葉で子

どもに向き合っか

ということが大き

なポイントだと改

めて感じました」

サイモーターで体を動かす

